

ぽすとしくりぷと（後書き？）

今回もまた、大変ご無沙汰しておりました。
喫茶綴のおにさくらです。

本作、「未必の恋」をお買い上げいただき、
誠にありがとうございます。

相も変わらず、おまけ（？）にはなりえない、
ポストスク립ト（後書き？）です。

今回もちろん、特に読む必要はないものです。

ちなみにこの冒頭を書き出した時点で、
まだ作品が完成していません。

そのため、「（後書き？）」となっています。

と、書いたのも束の間――ではないですが、
現在は完成しました。

3行目の空欄との間に、
およそ1日半くらいのラグがあるためです。
書こうとして、別の事に手を出していたところ、
書く時間がなくなっていました。

ちなみに本作は2023年の冬コミにて
先行リリースとしている作品です。

現時刻は冬コミ参加当日の午前二時頃です。
この後に及んで、後書きを書こうとしているのも、
なかなかひどいですね。

個人的にはテンションが

ハイになってきた状況です。

ランナーズハイ的なあれです。

スペースに無事辿り着けるのかも不安ですが、
開催中起きていられるかも怪しくなってきました。

そしてなんと、コミケに出るのが久しぶりすぎて、
見本誌の規定のことをすっかり忘れていて、
今、大急ぎで、提出用のメディアディスクを
作成しています。

出発前に気づいて本当によかったです。

気づいていなかったら、

販売停止措置になるのではないかと……。

そして聡い方はお気づきかと思いますが、
この後書きを書いている、ということは、
この作品（未必の恋）は、まだ完成していません。

つまりこのあと、

「メディアアディスクを作る必要がある」
ということですよ。

計画性があまりにもない、としかいえません。

あと、疲れているからか、

もない、と打とうとして、何回も、

モアイ、と打ってしまっていました。

状況は明らかに自業自得なのに、

タイプミスが多いという理不尽な理由だけで、

モアイの事が嫌いになりそうです。

こんなこと書いてますが、

多分あとから過去を振り返った時には、

そんなこともあったなあと、懐かしさから、

モアイへの好感度が上がっていきそうな気がします。

モアイについて、全くの無知ですが……。

こんなことを書いている間にも、

本当に時間がなくなってきました。

今回の後書きで、

もしもいつも以上に誤字脱字が多かった場合、

それは私が今非常に焦り、混乱していて、

かつ、疲れているからだと思います。

はい、言い訳です。

うん、本当に時間がありません。

いつもであれば、過去の後書きを読み返して、その内容を参考に後書きを書くところですが、今回はそうせず、いきなり作品に触れようと思います。

本作、「未必の恋」は、
「未必の故意」という用語を耳にして、
作ってみたくなった作品です。

※未必の故意
自分の行為によって、
犯罪にあたる事実が発生するかもしれないと
思っている（いた）が、発生すれば
それでもいいと思っている（いた）心理的状态。
※意識です。

もしかしたら正しい意味で取れていないかも？
現在とても急いでいるから、と言いつつ訳します。

本作は、私の過去作と比較すると、
非常に直球でシンプルな作風かと思っています。
個人的には、こういった作風も好きです。

どんな作風なのかは、
ぜひぜひ作品を聴いて、
感じていただきたいところ。

詳細は省略します。

時間もないのももちろん、

この作品は、

「かの仔さんの演技あってこそその作品」
だと思いますので。

ぜひぜひ聞いてみてくださいませ。

かの仔さんのお名前に触れたので、

そのまま続けていきますが、

今作では、声を「かの仔様」、

イラストを「めいん様」にお願い致しました。

かの仔様には本サークルでは、

作品名「蠱惑」でもお世話になっていきます。

あの時の作風とは打って変わって、

澁刺として幼馴染然としたキャラクタです。

一人称が「俺」のキャラは珍しいかもですね。

ちなみに、おまけパートだけ、
一人称が実は違いますが、
お気づきでしたでしょうか？

「あれ、そうだったけ？」と思った方がいらしたら、
ぜひ、聴き返してみてください。
そう思わなくても、聴き返してくださいたら、
私はとても嬉しいです。

私は出演いただいた
かの仔さんの大ファンですので、
今回も依頼をお引き受けただけの事が、
とても嬉しかったです。
そして実際に収録していただいた内容に、
感動しきりでした。

具体的に語ると長くなる未来しか見えないため、
是非本編をお聴きいただいて、
かの仔さんの演技に魅了されながら、
実感してくださいませ。

どうも気持ち強く出過ぎて、
取り止めのない文章になっていますね……。

本当に、素敵で魅力的に演じていただいています。
ぜひぜひ、本編をお楽しみくださいませ。

かの仔様、本作をご収録いただき、
誠にありがとうございます！

この場を借りてお礼申し上げます。

そして今作もイラストは、
めいん様に描いていただきました。

これまでの成人向け作品は、
全てめいん様に描いていただいていますね。

前回の後書きでも書いた気がするのですが、
私はご依頼の際は毎回、

差分を多く描いていたいています。
今作も通常のイラスト（パッケージ絵）と別に、
服装や表情の差分などを書いていただきました。

どのイラストもとても魅惑的なものです。

「特典」フォルダ内に
「イラスト」フォルダがございます。

そちらの中にそれぞれ収録されていますので、
ぜひぜひ、ご覧くださいませ。

私は何度も見返して楽しんでいます。

みなさまも同じように、

楽しんでいただけたら幸いです。

めいん様、

今作でも素敵なイラストを描いていただき

誠にありがとうございます！

作品を聴いて下さる方々にも、

いつも感謝しきりです。

こうしてサークルを続けられているのも、

手に取ってくださる方がいて、

さらには感想をくださる方までいて、

そうした事が本当に励みになっております。

いつもありがとうございます。

毎回、その時その時に描きたい作風で

作品を仕上げていく形なので、

なかなか、喫茶綴と言ったらこれ、

といった色が見えているのかはわかりませんが、

何かひとつとでも、魅力と考えるがあれば幸いです。

さて、なんだかんだで、

今回も長めの後書きになってしまっています。
本当に時間がありません。

すでに私の睡眠時間はありません。

このあと、車で冬コミ会場まで移動です。

その前にそもそも、

メディアディスクを焼かないと

見本誌が出せません。

……そんなわけで（？）、締めへと向かいます。

いつもならばここで、

次回作以降のお話を入れるのですが、

その点は今回は割愛します。

進捗としては、

前作、「色ニ溺ル」をリリースした時点と
変わりません。

二本の台本を執筆中、

一本の台本が保留中です。

次にリリースになるのは、

きっとスー&8向けかなと思っています。

どうか次回作へも、

お付き合いいただけたら幸いです。

あらためまして、

この度は、喫茶綴の音声作品、

「未必の恋」をご購入いただき、

誠にありがとうございました！

今作を聴いていただいた方に、

今回も何か一つでも、「刺さる」内容があれば、

私はとても嬉しいです。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します！

2023年12月31日 午前2時45分。

冬コミ準備に本当に時間がなくて、

ばたばたしている自室にて。

喫茶綴 おにさくら